

弘前城跡の城門の修理、どんなことするの？

前回の大きな修理は昭和30年代～40年代のこと。

それ以降に傷みが出てきた部分を修理していきます。



▲南内門の2階屋根

棟材の端を飾る鬼板が脱落



鬼板



屋根軒先の銅板が欠損

▲追手門の2階屋根

そして、もう一つの大切な目的が…

耐震補強

近年、全国的に地震で多くの文化財が被災しています。

備えは大事！

弘前城跡も現在の耐震基準を満たすよう補強していきます。

そのスタートとして令和3年度に着手した追手門・南内門の修理が今年度完了しました！

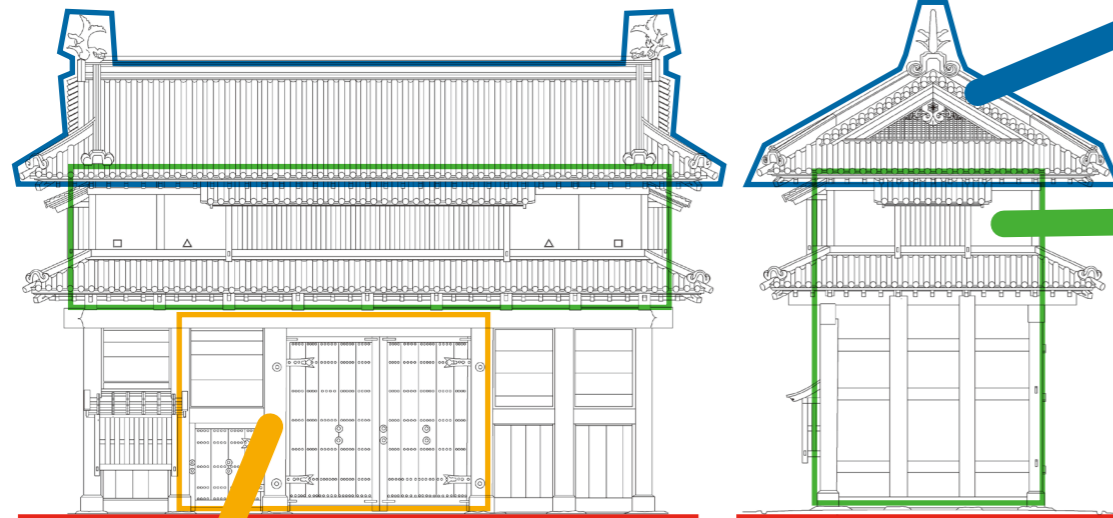
他の7棟も順次修理していきます

まだまだ続くよ

追手門と南内門の修理

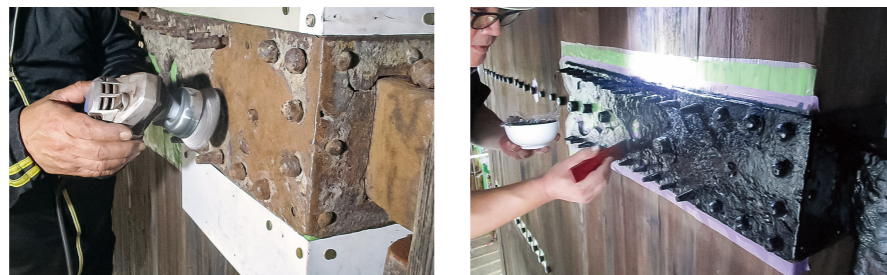
正面

側面



門扉

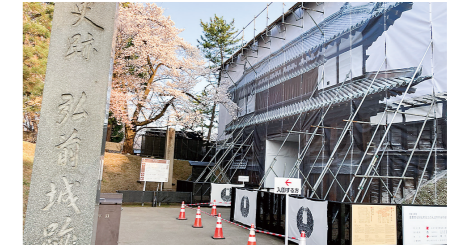
門扉の金具のさびを落とした後、さび止めの漆を塗って仕上げました。漆は仕上げも含めて4回重ね塗りしました。



修理工事中は、皆さんが見学できるよう、実物の部材や工事の写真を展示し、修理工事の状態を『見える化』しました。工事用の仮設足場を実物大の城門写真のシートで覆うなど、景観にも配慮しています。



▲工事中の追手門通路。透明パネルで修理状況を見学できる。



▲工事中の追手門と南内門の外観

屋根・鯨しゃち

2層ある屋根のうち、2階屋根の銅板の葺き替えを行いました。屋根に取り付いている鯨も一度取り外して修理しました。



壁

土壁の凹みを白漆喰(しっくい)で埋めて平らにした後、さらに全体を白漆喰で上塗りしました。



耐震補強

建物を安定させるため、地下に重りを埋めました。また、2階内部と1階内壁に建物内の柱を補強するための「筋違い」を追加して耐震補強をしました。

はみだし読み物 其の式

文化財修理の考え方

文化財に指定された建物は、先人たちの技術や材料への考え方を現在に伝えてくれる、最良の教材といえます。ですから、修理する時は、建てられた時の形や構造をできるだけ残す必要があります。弘前城の城門には「江戸時代の城郭建築」としての価値があり、築城から現代まで修理を重ね、私たちがみている今の姿になっているのです。そのため、今回の修理では、比較的良好な状態を保っていた1階屋根や柱・扉板などの部材は交換せず、このまま維持することにしました。